

平成30年度第3回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成30年12月20日（木）14：00～16：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、須田委員、佐野委員、バンダイナムコスタジオ、FUJITSU エンバシー
東芝デジタルリユージョンス
(事務局) 井端事務局長、野本

IV. 議事内容

1. 産学連携人材ニーズ交流会の提案について、昨年度までに報告した内容を含め、「構想力・問題解決力・実行力の育成を目指した分野横断型PBL授業モデルの構想」として整理した。

- ・ 「1. モデル提案の背景」、「2. 授業モデルの仕組み」、「3. 授業モデルの位置づけと活用」、「4. 授業モデル実施に向けた条件」、「5. 授業モデルの実施方法」の項目で整理した。
- ・ イノベーションに関与できる教育を実現するための分野横断型 PBL 授業の導入には、自前主義の教育から脱却し、連携するオープンイノベーションの教育が急がれる。
- ・ IoT 空間に授業を置くことで、分野横断型のオープンな学びの場で創発的な訓練を行う。
- ・ 問題意識の気づきのため、教員も半教半学で進める必要がある。
- ・ チームで成功・失敗の振り返りとして、レポートによる学びの循環を考えた。
- ・ 分野横断型 PBL の評価は、例えば、チームについてはクラウドファンディング、個人についてはビデオ試問で行うことが考えられる。
- ・ 受講学生は、異色混合でのチームを構成し、新しい学びの場で卒業までに世界に通用する力を高めることを目指す。
- ・ 大学と社会が接続する「大社接続」、複数大学で分野横断、分野横断を学内で行うパターンが考えられる。また、単位取得は大学横断などの位置づけが考えられる。

2. 産業界との連携に関して、IT 人材育成共通プラットフォーム構想の説明

- ・ 学生は、分野横断で答えを探す設問に対して答えに近づくために、何度も繰り返して学修することが求められ、産業界からは斬新なアイデアやアイデアの卵が生まれる可能性に期待している。
- ・ 非 IT 企業に IT 人材が不足している点が、IoT の進展を阻害しているといわれている。
- ・ 取り組みとしては、トリリオンノードとして組み立て組み換えできるリーフ（2cm 程度のモジュール）での製造軽減や ifLink として条件カードの組み合わせでプログラム・サービスの開発軽減などが行われており、実際に試作を進める研究会などの活動も開始されている。

3. 分野横断型 PBL 授業モデルの構想についての意見

- ・ 本協会からの提案として、授業モデルの実施方法については、「学内で行う場合」は除いても良いのではないかと。
- ・ 仕組みの図について、学修クラウドを含め IoT 空間にある表現、学生が主役で大きく表示してコーディネータは支援側で小さく表現、知財に関する表現など修正することにした。
- ・ テーマや制約条件を与えるか否かは、枠をはめることなく、社会課題としてのテーマを考へること。テーマは、環境や安全安心などを考へ、学修の仕方をコーディネートして直接教えないで知識を得るための紹介等、手助け中心の支援を目指す。
- ・ 協力支援者に社会的な表彰などで定年や退職者の働き方改革への取り組みにつなげられないかなどの意見があった。
- ・ 構想資料への追加事項として、知財の評価機構の設け方、社会有識者の参加としての働き方改革につなげる考への記述を検討することにした。

V. 今後のスケジュール

次回の委員会は2月5日に開催し、産学連携人材ニーズ交流会での提案内容を引き続き検討することとしている。